



国民の森林・国有林

中部森林管理局

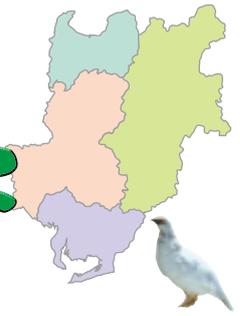
〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

# 中部の森林



城東小学校でマスクをしておきの出前授業

小学生を対象に

「出前授業」を実施

(P4~5に関連記事)

主な項目	○ 白馬岳山火事跡地調査報告会 .....	P 2
	○ 各種現地検討会を開催 .....	P 3
	○ 風景紀行「木曾越古道と三十三観音」 .....	P 6

# 白馬岳山火事跡地調査報告会

【「中信署」十一月二十七日、白馬岳山火事跡地調査の最終報告会が中信森林管理署会議室で開催されました。この調査は、本年五月に、「花の名山」として知られる白馬岳小雪溪上部の高山帯において山火事が発生したことから、自然環境への影響等を総合的に調査するため、中信森林管理署が信州大学山岳科学総合研究所に委託して調査をしたものです。

植生回復状況については、高橋准教授から「草本群落では山火事のダメージがほとんどないが、燃えたハイマツ群落は枯死しており、林床植生もほとんどなかった。ただ、ハイマツ群落の焼失面積はそれほど大きくなかったため、山火事の生態系への影響は限定的であり、今後は焼失したハイマツ群落がどのように回復していくかを観察していく必要がある」との報告がありました。

続いて、地形・地質については、荻谷教授から「今後の地形変化予測として、短期的には、特に問題視する必要はなく、中期的（次シーズン以降）には、ハイマツ群落が回復せずに枯死することで裸地化することが懸念される。しかしながら、登山道への土砂流出は、山火事跡地内に土砂が存在しないこと、

山火事跡地と登山道との間に川があり、発生したとしてもそこで土砂が吸収されることから、問題視する必要はない」との報告がありました。

また、高山蝶については、中村寛志教授から「白馬岳山火事により延焼地域内に生息していた高山蝶のベニヒカゲとクモマベニヒカゲの幼虫、卵はほとんど焼死したと考えられるが、今回の調査から、食草（ノガリヤス・スゲ類）の生育及び成虫の山火事区域外からの移入を確認したことから、山火事区域内で再び生息し、個体数は回復すると推測される」との報告がありました。

最後に、ライチョウについては、中村浩志教授から「火災による被災地の面積はわずかであり、ライチョウが餌とする高山植物（ガンコウラン、ミネズオウ、オヤマノエンドウ）への影響はわずかであった。また、被災地内で採食となわばり見張り行動が観察され、被災地を含むなわばり行動が行われていた。さらに、被災地周辺のなわばり分布は、過去の調査結果とほぼ同様であった。これらのこととや五月上旬と時期が早かったことも幸いし、今回の山火事によるライチョウへの影響はほとんどなかった。しかしながら、時期が進んだ段階で山火事が起きた場合は、影響がでる可能性が高く、北アルプス北部は、枯草群落が広く見られることから注意する必要がある」との報告がありました。



白馬岳山火事跡地調査の最終報告会の様子

これらの報告を受け、今後の山火事跡地の復旧及び山火事防止の普及啓発を含む白馬岳の適正な利用について、関係行政機関と連携を図りながら取り組むことを署長が表明し、閉会となりました。

## 平成二十一年度

### 第二回署長等会議

【企画調整室】十一月十二日～十三日、森林管理局等において署長等会議が開催され、十月に開催された局長会議、事業担当部長会議の内容を踏まえた指示が伝達されるとともに、本年度の業務運営に関する指示、打合せが行われました。

全体会議は、局庁舎の耐震工事の関係から、外部の若里市民文化ホールで実施され、冒頭、城土局長及び竹林次

長から①冬季作業に向けた安全対策の再確認、②国有林野事業改革をめぐる諸情勢、③農林水産省改革、④収入確保・予算執行の取組、⑤平成二十二年度林野庁概要要求、⑥森林・林業再生の推進、⑦山地災害発生時の民有林との連携、⑧フォレストサポーターズ、⑨綱紀の粛正等について訓辞が行われました。

引き続き各部長からは、事業実行に当たっての具体的な取組、注意事項について指示が行われました。

特に今回の会議では、新政権下での予算編成など、従前とは異なる諸情勢を踏まえつつ、①地域住民に国有林が果たしている役割等を理解してもらう取組、②地域の林業の課題に迎え、関係機関と協力して地域活性化に寄与する取組等が求められていることを強く認識し、事業に取り組むことを確認しました。



署長会議の様子

## 各種現地検討会を開催

### 造林事業現地検討会

【森林整備課】十一月九日、中部局においても低コスト造林を推進するため昨今注目を集めているコンテナ苗を主要なテーマとして造林事業現地検討会を実施しました。当日は、会場である中信森林管理署金松寺山国有林に、育成係長等の造林担当者のほか種苗組合関係者や県職員など約四十名が参加しました。

コンテナ苗は、植付作業の負担軽減や良好な初期生長により下刈等作業の省力化が期待でき、苗畑で生産した苗木よりも根元径が細く苗長も長いという特徴があるため、日頃苗木を見なれた参加者も初めは戸惑いを感じられた方もあったようです。

(3) 平成 21 年 12 月

しかし、根の部分をほぐして観察してみたところ、細かい根がびっしり生えた良い苗であることが分かり、「数回根切りを繰り返し返していないと、このような苗木は作れない」等、苗木生産者から驚きの声もきかれました。苗の様子等を観察した後、署の育成係長等が中心となって宮城式植栽器具や唐鋤を用いてスギ・カラマツのコンテナ苗百本程度を植付しました。作業としては簡便ながら、実際に活着が良いかどうか、苗木の運搬方法や保管方法など意見がだされ、今後実践に向

けた課題として検討していくこととしました。  
今回、視点の異なる立場から様々な意見交換がなされたことを活かし、引き続き中部局としての低コスト造林に取り組みむこととしています。



コンテナ苗の説明

### 林政協議会木曾谷流域部会で 現地検討会を開催

【木曾署・南木曾支署】十二月一日、木曾地方事務所林務課及び木曾署、南木曾支署の関係者が参加し、現地検討会を開催しました。

これは、民有林・国有林の現地を把握するなかで、双方の取組や課題等を共有しながら連携を深めるため例年開催して



現地検討会の様子

いるものです。

当日は、王滝村の国有林内で、長野県西部地震被災地の復旧状況や天然更新施業の状況等を視察し、天然更新箇所では稚樹の発生状況等から更新が進んでいる様子に感心が寄せられました。

現地検討会後、場所を木曾署へ移し、民国連携事業の推進や獣害防除対策、林業事業者の育成等について情報交換を行い活発な意見が出され、有意義な検討会となりました。

今後もこういった取組により民有林・国有林それぞれの現地を把握する中で、密接な連携を図ることが木曾谷林業の活性化につながるものと感じています。

## 各地からのたより

### 治山研究発表会で 優秀賞を受賞

【岐阜署】十一月四～五日、東京都において第四十九回治山研究発表会が開催され、各局、各県及び民間から四セクションに分かれ計五十課題の発表が行われました。

中部局では当署から、斜面・溪流対策等の取組部門に「ソイルセメントを用いた治山ダムの構築」(板取川治山事業所)を発表しました。

表彰式での講評では、二年間に亘る様々なデータの集積とその分析が評価され、優秀賞を受賞しました。



表彰状を手に森課長と山田主任

### 人気ドラマのロケ行われる

(三殿貯木場にて)

「南木曾支署」平成二十一年十一月十三日と十五日の二日間、当支署の三殿貯木場において、TBS系ドラマ「浅見光彦〜最終章〜」のロケが行われました。

このドラマは、主人公のルポライター「浅見光彦」が、日本各地を旅しながら事件を解決するといったシリーズもので、今回は、七年前に旅先である木曾で亡くなった妹（山で転落死扱いとされていた）の命日に合わせ、母と木曾を訪れ、妹の死に隠された謎を解き明かすといったもので、三殿貯木場のロケでは妹の死とも密接に関係すると思われた者が殺害された現場として使われ、ヒノキ人工林の極をバックに、警察の実況見分が進む中で、浅見と刑事とのやりとりが撮影されました。



三殿貯木場でのロケの様子

ドラマのロケ場所の選定に当たり、制作会社は木曾らしい風景へのこだわりから、ヒノキの里らしいイメージを漂わせ



エキストラとして参加した西村さん

る三殿貯木場に白羽の矢を立てたというものです。

十五日（日曜日）のロケには、当支署から二名の職員がエキストラとして、鑑識役と刑事役で出演。十二月二日の放送では、俳優と見間違えう程の名演技であったとドラマを視聴した同僚の評価は高く、出演した職員にとっても貴重な体験となりました。

今回、撮影協力といった形で、「中部森林管理局南木曾支署」のテロップもドラマへ入れていただき、新たな手法ではありますが、開かれた国有林としてのPRにも繋がったものと考えています。

### 低コスト・高効率化作業を

### 目指した技術講習会を実施

「東濃署」低コスト・高効率化作業を目指した技術の向上、列状間伐の設定方法等についての技術講習会を、十一月十日〜十二日の二日間、加子母裏木曾及び中津恵那国有林において開催しました。これは先般木曾管内で実施された低コスト・高効率作業の現地検討会をうけ開催されたもので、名古屋事務所の担当者二名、森林官及び係員を中心に署内職員

も含め二十名以上が参加し、現地実習を行いました。一日目は二班に分かれプロット設定を行い、列幅等を検討するなど列状間伐の意義や設定方法等について学びました。

二日目午前中は低コスト路網のDVD及び粘土による模型等を参考に、作業路の設定及び作設等について学んだ後、午後は、現地において実際に作業路の線形を各班で設定する等、より実践的な視点で検討しました。

今回の講習会を踏まえ、現場業務の中で低コスト・高効率化作業の定着にむけて意識し取り組んでいきたいと考えています。



作業路線形を検討

### 新たにタテヤマスキの巨木発見

「富山署」早月国有林の中山(一、二五五辺)でタテヤマスキの巨木が発見され



発見されたタテヤマスキ

た。

巨木は、直径十九センチ、樹高二十センチ、地上約二メートルから三本の幹に分かれて大岩を抱くように生育していました。

発見者は、植物写真家の宮誠而さんで、中山で偶然発見されました。

当署としても、発見箇所が早月川上流の中山で、この地域では初めての生育確認であることから、正確な位置は公表しないで見守ることとしています。

### 長野市内の小学生を対象に

### 「出前授業」を実施

「指導普及課」十二月二日、長野市の信州大学教育学部附属長野小学校において、五年生の児童、四十名を対象に「出前授業」を実施しました。

今回の「出前授業」は、本学年の児童の保護者の方々が中心になり、児童達が四年生であった昨年の「親子でリース作り」に引き続き依頼をされたもので、

「木工クラフト等の作製や森の学習を通じて、子供達に山や自然の大切さについて理解を深めてもらいたい」という保護者の皆さんの子供達への思いのもと、保護者の方も一緒になって、ヒノキの間伐木を使つてのノコギリ体験やコースター・ネームプレート作り、ネイチャーゲームを行いました。

また、十二月九日には、同市内の城東小学校の五年生の児童、三十名を対象に「出前授業」を実施し、「世界で一つだけのマイ箸」作りに挑戦しました。

今回の「出前授業」は、総合的な学習の時間を利用して、自分達の手で箸を作つてみたいという児童達の提案のもと、クラス全員からお願いの手紙をいただき、実施したもので、ヒノキの端材から採取した材料を、ナイフや小刀を使つて、慣れない手つきで一糸懸命に木を削りながら、オリジナルのマイ箸作りに熱中していました。

新型インフルエンザの流行により職員もマスク姿での出前授業となりました。

このクラスでは、事前学習として、学校の授業の中で、児童達自らが箸作りに



小刀上手にできるかな

適している木材を調べたり、間伐材の利用について調べたりと、今回のマイ箸作りに向けた準備を重ね、また、校長先生から、「学校の周りには自然がなく、森林や木に触れる機会が減っている子供達に、最終的な目標を箸作りにすえながら、間伐材についての勉強を活かし、ノコギリの使い方等の学習や間伐材を使つてのクラフト作り等を通じ、木とのふれあいや自然の大切さを感じさせたい」とのお手紙もいただきました。

十月十四日にも「出前授業」を実施し、校庭の樹木を使つたネイチャーゲームやノコギリ体験、間伐木を利用したクラフト作成の実習も行いました。

### 自由に遊び、安らぐ場の提供

「国有林野管理課 ファミリー・フォレスト・ガーデン」ト・ガーデンは、家族やグループなどが国有林を利用して「森林とのふれあい」を目的に、平成十二年度から北信森林管理署管内の「カヤの平自然休養林」において、十八区画を設定し実施しています。

当地域は、樹齢七十五年から九十年のシラカバやブナなどの天然林がある木島平村郊外で、この一帯は森林セラピー基地にも認定されています。

今年度は、契約満了となる四区画において募集を行ったところ八名の申込みが

あり、募集した四区画のうち、三区画で競合したことから、十一月二十五日に抽選会を実施し当選者を決定しました。

今後、利用にあたり契約を締結し、来春から原則三年間（最長六年間）の利用となります。森林と共生しながら、自由に遊び、安らぐ場として活用していただくとともに、既に利用されている方々を含めた秋の交流会等の機会を通じて、開かれた国有林の情報発信に努めて参ります。



抽選会の様子

（北相木村、南相木村、小海町、南牧村、川上村）する国有林及び官行造林地が事業区域となっています。

班員は二名と少人数班ですが、作業は除伐等の造林事業をはじめ、林道維持、各種保全管理業務等多岐にわたっています。特に近年は、温暖化対策に関わる業務が増えています。広域に及ぶ事業区域、東信署管内でも有数の急峻な地形に加えスズタケの密生地帯があり、作業環境は厳しい条件となっています。

少人数班であることから、毎朝のミーティングにポイントをおき、作業の段取り、安全の確認等をしつかり行うようにしています。

これから冬山を迎え、凍結、降雪など作業環境が一層厳しくなることから「安全第一」を基本に、交通安全、足元・手元に注意する等小さなことの積み重ねで安全作業に取組、安全第一で無事に乗り切りたいと思っています。

### シリーズ 現場最前線

#### 「安全第一」を基本に

「東信署 相木班 相木班の現場は、相木、八ヶ岳、川上の三森林事務所が管轄



本数調整伐作業中



### 木曾越古道と三十三観音

〔東濃署〕 当署が管轄する加子母裏木曾国有林は、中津川市の北東部に位置する面積約四、二〇〇畝の国有林です。

江戸時代には、尾張藩の藩林として管理され、留山制度（木曾五木の伐採を禁ずる）により木曾ヒノキの群生地が守られてきました。現在は、木曾ヒノキ備林や護山神社奥社など歴史的にも興味深い見どころがたくさんありますが、今回はその一つである「木曾越古道」をご紹介します。

「木曾越古道」は岐阜県の加子母から長野県の王滝へ抜ける古道で、その歴史は今から九百年ほど前まで遡ります。

当時は、御嶽山へ向かう主要な登山道として利用され、御嶽講の行者や信者が頻繁に往来していたそうです。

そしてその道中、加子母から長野県王滝村滝越地区までの間には観音様を刻んだ三十三体の石像が奉られていました。

この観音像は、文久二年（一八六二年）に

加子母の「林文三郎」、付知の「田口忠左衛門」が発起人となり、旅人の安全を願って木曾越峠の要所に道標として安置したものです。この古道は、昭和に入ってから利用されてきましたが、道路や鉄道が発達するにつれて次第に往来が途絶え、やがては観音像の行方だけでなく、そのルートさえも不明となってしまいました。

この美濃の国と信濃の国とを結ぶ歴史ある古道を復活させようと、平成十四年に地元有志が「古道木曾越峠と三十三観音研究会」を旗揚げし、木曾越峠のルート調査と所在が不明となっている三十三体の観音像の捜索を行ってきました。

研究会の熱心な捜索の結果、これまでに二十六体の観音像が発見されたものの、この四年間は、見つからない状態が続いていました。

ところが、今年の十一月に研究会と裏木曾古事の森育成協議会が協賛して「紅葉の『裏木曾の森』で三十三観音を探そうツアー」を開催したところ、新たに二十七体目が発見され、テレビニュースにも取り上げられました。行方不明の観音像は残り六体となり、同研

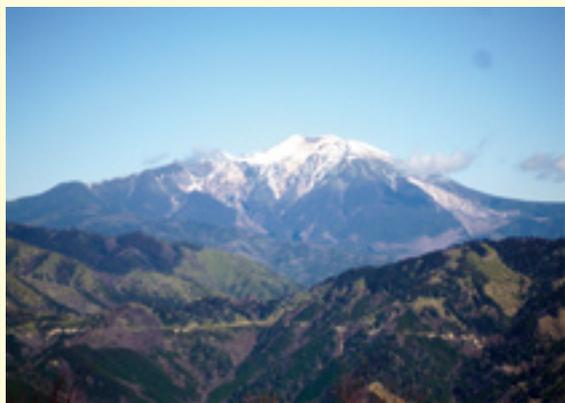


新たに発見された観音像

究会では、今後も捜索を行う予定です。発見されたルートは現在、加子母にある高時山へ登るアクセス道としても利用されており、道の脇では昔の風景そのままに観音像が登山者等の安全を見守っています。



昔の佇まいを現在に残す木曾越古道



高時山から望む御嶽山

#### ◆アクセス

中央道中津川ICから国道二五七号線を経由して加子母へ  
加子母総合事務所を横切り  
（古道木曾越登山道入口）へ

### 人のういき

#### 中部森林管理局人事

十一月十六日付

▽南信森林管理署総務課付（南信署諏訪南森林官） 堀内 志保

#### 林野庁人事（抄）

十二月一日付

▽林野庁国有林野部経営企画課付（森林整備部計画課併任）（中部森林管理局 東信森林管理署長） 大西 満信  
▽中部森林管理局東信森林管理署長（北海道森林管理局日高北部森林管理署長） 安永 正治

#### 中部森林管理局人事

十二月一日付

▽関東森林管理局出向（総務部総務課付）（林野庁森林整備部計画課併任 国有林野部経営企画課併任）（木曾署南木曾支署治山課技術専門官） 掛部 晋

▽岐阜森林管理署業務第二課土木係（岐阜署樫谷森林事務所） 生駒 豊文